

千年の森便り No.209

2020.12.10

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

今年は紅葉が例年より早いとのことで心配しましたが、豊英島はいつもの12月と変わらない紅葉で迎えてくれました。青空に映える紅葉や、水面に映る赤や黄などさまざまな姿を楽しむことができました。

活動はニホンジカ生息調査を最初に行い、その後はギャップ林の管理方針の検討、センサーカメラの設置場所の確認、シカ食害地の植生再生の新たな試みの準備など、今後の活動の準備的な作業に力を注ぎました。台風被害木の片づけも継続的にいき、最後に久我さんの挨拶で今年の活動を締めました。

参加者は、秋元、新井、伊藤、鶴沢、及川、久我夫妻、中田真也子、成川、福島、村野 11名でした。皆さんお疲れ様でした。(伊藤)



ニホンジカ生息状況調査

活動日の最初の調査として、ニホンジカ生息状況調査を行いました。3か月に1回行っており、今回は年4回のうちの3回目となります。吊り橋の手前で踏査コースの分担を行い、全員で橋を渡ったあと、時間を決めて一斉に調査をスタートしました。

調査は、いつもの7コースを一斉に踏査し、ニホンジカを発見したら記録するという方法で実施しました。調査時間は10:05~10:30です。

結果は、目撃はなし。痕跡は、7コースでフンが確認されただけでした。調査後の情報として、広場近くでも比較的新しいフンを確認しましたが、全体的に痕跡は少なかったようです。

ニホンジカ以外の情報としては、ホテイ岬の水辺やホテイチク林の一部、巨木林エリアの一部で、イノシシ

シによると思われる掘り返しが確認されました。これらが本当にイノシシによるものなのか、センサーカメラを活用した早急な調査が望まれます。(福島)



イノシシによる掘り返し?



調査出発前のミーティング・コース決め



ニホンジカの糞

センサーカメラ

本日の定例活動日に新品の2台のセンサーカメラが導入されました。このカメラの撮影距離は標準では5m、LEDフラッシュ使用時で12m~30mとなっております。撮影ポイントの決定には福島さん、新井さんに同行していただきました。1台はイノシシの撮影を目的に地面の掘返しの確認された候補地で、ホテイ岬とホコラ山の南東側の2箇所ありましたがホコラ山南東側の痕跡地が適当と思われこちらにしました。別の1台は島の入口部にあたる吊橋付近としました。1月の定例活動前までに設置したいと思っています。よって、撮影の成果については2月以降の報告になります。(秋元)



センサーカメラ据付け位置検討

ギャップ林のモニタリング樹木の選定

当初の目的を果たしたギャップ林の新たなステップでの調査観察のため、新井さんと樹種の選定をしました。まずは、A(中高木)・B(低木)エリアに両手を広げた程度の間隔で中高木を選び目印を付けました。選定の基準としてはコナラを優先種とし、希少種と思われるものを選びました。次回の活動日には、低木で残したい樹種を選びたいと思っています。植物班の班員に確認をいただいてから順次、印の無い植物を刈り出していきたいと思っています。(秋元)

ギャップ林の紅葉と花

ギャップ林の中もしっかり紅葉していました。色鮮やかな赤系統のイロハモミジ、ウリカエデ、エンコウカエデ、ヤマウルシ、アズキナシの赤い実はあちらこちらに散らばっていて、幼木はちょっと地味な色合いの葉をつけていました。変わり種の子マコウバシは冬でも褐色の葉をつけたままですが、10cmほどの幼木は赤っぽく色づいていました。



イロハモミジ

エンコウカエデ

ウリカエデ

アキバギクとアキノタムラソウはC・D(多年草)エリアに点在して咲いていて、リュウノウギクは1株花をつけていました。この時期に人気のサルトリイバラも真っ赤な実をつけていました。(秋元)



アキノタムラソウ

サルトリイバラ

リュウノウギク

バカマツタケとアカモミタケを確認

古いセンサーカメラを回収していた時、ホテイ岬に行く途中で成沢さんがバカマツタケを2本発見しました。すでに腐敗している状況ではありましたが、時期的には11月末に発生していたことになると思います。あまりにも遅い時期でびっくりでした。

また、ホテイ岬では傘が開いてすぐのアカモミタケを確認しました。暖かいせいで発生の時期がズレたのでしょうか？（福島）



アカモミタケ

島のあちこちに沢山の鮮やかな紅葉や黄葉が

昨日は「ちば千年の森をつくる会」の活動に参加しました。いつものようにダム湖の真ん中の豊英島での活動。シカや植物の調査に参加したり、紅葉や黄葉の写真をとったりしてのんびり過ごしました。今年は紅葉が早く、もう見れないかと思っていましたが、島のあちこちに沢山の鮮やかな赤や黄色が見つかりました。



「ちば千年の森をつくる会」、子供達と参加できていたころは2~3カ月に1回ぐらいは参加していたのですが、最近では子供達も部活だったり試験前だったりと一緒に来れることもめっきり減りました。

私も地元のイベントがぶつかってしまい、年に参加できるのが2~3回になっています。でも豊英島は私達家族の自然体験の原点。来年は、年間計画にも入れて森林を整理する活動などにも参加し、継続していきたいと思っています。時々には子供達やその友達と一緒に・・・（中田真也子 12/7Facebook 投稿記事より抜粋）



コナラの黄葉

ヒイラギ

ゴマフボクトウのフラス(参考)

参考) ゴマフボクトウ画像；下記htmlより転載
www.jpmoth.org/.../Zeuzera_multistrigata_leuconota.html
ボクトウガ科の昆虫、カシ、ナラ、ツツジ等の地際近くの木部に穿孔し、成虫は6-8月に出現し樹皮に産卵、幼虫は枝や幹に寄生。穿孔孔からは画像のように淡赤色円形のフラス（糞）が排出されて地上に積もる。



ゴマフボクトウの成虫

ゴマフボクトウの幼虫

倒木処理

好天气に恵まれた活動日。雲一つない真っ青な空を見上げると、高木の樹々の葉っぱが、紅や黄色に紅葉して、美しい景観が眺められました。林内は至る所に倒木があります。午前中、家内則子とホテイ岬方面の通路を塞いでいる倒木を、チェーンソーで切断しました。

午後、伐倒処理された「巨木桜の木」の周辺を、伊藤さん、成沢さんと倒木コナラをチェーンソーで切断して処理しました。成沢さんには、故障したチェーンソーを修理して頂き有難うございました。（久我哲也）

お知らせ

次回は1月17日（日）です。

全体活動はありませんので、新年の顔合わせの後は、それぞれのテーマにそった活動にじっくり取り組めます。ギャップ林の整備方針が決まれば伐採作業（刈り出し）にとりかかります。作業の性質上チェーンソーを使わず手鋸で行いますので、ヘルメット、鋸をお忘れなく、清和自然休養村(直売所) 9時30分集合です。